

ブックちゃんの

2022年6月1日発行

# ふじのみや探検

第37号 夫婦都市のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284



児童交歓会での歓迎のようす

夫婦都市という言葉が聞かれていますか？市民や団体が様々な事業で交流を重ね、なかよくしている都市のことです。

富士宮市は滋賀県の「近江八幡市」と夫婦都市の提携を結んでいます。夫婦都市のひみつを探ってみましょう。



©富士宮市さくやちゃん

## ひみつ1

### どのようにして夫婦都市になったの？

日本一高い“富士山”をもつ富士宮市と、日本一大きな“琵琶湖”をもつ近江八幡市。この二つの日本一をもつ両市は、「神様が土を掘り、その土を運んでつくりあげたのが富士山、掘ったあとが琵琶湖」という昔話をもとに、日本でも珍しい提携を結びました。もともとは、昭和27年に近江八幡市の有志が『富士山と琵琶湖を結ぶ祭典』という行事を始めたことがきっかけでした。その後も交流を続け、昭和42年に『都市縁組をしないか』という話が出てきて、昭和43年8月3日に「夫婦都市」の縁組をしました。

結納のしるしとして、富士宮市からは桜の木200本を、近江八幡市からは結納がえしとして、琵琶湖のヒゴイ・マゴイ250ひきが贈られました。当時の新聞でも「交際」「婚約」「挙式」などの人間関係にたとえて、この夫婦都市のことを取り上げました。以来、行政・スポーツ・文化などさまざまな面で交流を重ね、友好と親善を深めてきています。平成30年には50周年を迎え、記念式典が開かれました。

永かつた春にピリオド  
きょう晴れて挙式  
両市から約80人が参列し

「岳南朝日新聞」

昭和43年（1968）8月3日

人口は約8万人の市で、滋賀県のほぼ中央、琵琶湖の東側に位置しています。面積は177,4㎢です。織田信長が築いた安土城跡があり、豊臣秀吉の甥にあたる豊臣秀次によってひらかれた城下町です。税が免除されるなど自由に商売ができました。それが、現在も活躍している近江商人が生まれる基となりました。近江商人の精神を表す言葉に「売り手よし、買い手よし、世間よしの『三方よし』」があります。これは、自分たちだけがもうけるのではなく、お客様に喜んでいただき、社会に貢献できる商売をするということを表しています。その精神や商売の方法を受け継ぎ、毎年、近江八幡商業高校の生徒が富士宮市を訪れて、特産品を販売する「産物廻し」を行います。

お祭りは、左義長まつりが有名です。左義長とは、12段に編み重ねた藁に竹を立て、赤い短冊で飾る山車のことです。毎年3月「チヨウヤレ、チヨウヤレ」「マッセーマッセー」などのかけ声とともに



「左義長まつり時のタオル」

観光地としては、「八幡堀」があります。市街地と琵琶湖を結び、商業の発展に大きな役割を果たしてきた堀です。テレビや映画の時代劇の撮影でよく使われ、平成27年にはNHK連続テレビ小説「あさが来た」のロケ地にもなりました。このお堀周辺を散策したり、舟でめぐったりすることもできます。

琵琶湖にはいくつかの島があり、その中でも一番大きな島が「沖島」です。湖にある島で人が生活しているのは世界的にも珍しいことです。島には、小学校や郵便局があり、児童交歓会（ひみつ4）で訪問します。

滋賀県立八幡商業高校の生徒が特産品販売を26日午後4時15分頃から、富士宮市役所1階市民ホールで行われる。富士宮市と夫婦都市提携を結ぶ近江八幡市商人の土官学校」とい

滋賀県立八幡商業高校の生徒による特産品販売を26日午後4時15分頃から、富士宮市役所1階市民ホールで行われる。富士宮市と夫婦都市提携を結ぶ近江八幡市商人の土官学校」とい

滋賀県立八幡商業高校の生徒による特産品販売を26日午後4時15分頃から、富士宮市役所1階市民ホールで行われる。富士宮市と夫婦都市提携を結ぶ近江八幡市商人の土官学校」とい

「岳南朝日新聞」

平成28年（2016）7月24日

左義長をかついで市内を練り歩きます。最後に、奉納されたこの左義長に火がつけられ、クライマックスを迎えます。このお祭りに、織田信長も参加したと伝えられています。

特産品として知られている物に「ふなずし」があります。塩漬けた丸ごとのフナ（琵琶湖でとれる子持ちのニゴロブナを使用することが多い）と米を漬け込み発酵させたもので、酸味のある独特な香りがします。骨は軟らかくなり、骨まで食べることができます。他に「赤こんにやく」があります。文字どおり赤い色をしたこんにやくで、これをモチーフにご当地キャラクターの「赤コン君」が誕生しました。

観光地としては、「八幡堀」があります。市街地と琵琶湖を結び、商業の発展に大きな役割を果たしてきた堀です。テレビや映画の時代劇の撮影でよく使われ、平成27年にはNHK連続テレビ小説「あさが来た」のロケ地にもなりました。このお堀周辺を散策したり、舟でめぐったりすることもできます。

琵琶湖にはいくつかの島があり、その中でも一番大きな島が「沖島」です。湖にある島で人が生活しているのは世界的にも珍しいことです。島には、小学校や郵便局があり、児童交歓会（ひみつ4）で訪問します。





毎年、「富士と琵琶湖を結ぶ会」の訪問団同士の交流があります。そこでは、琵琶湖の水を富士山頂剣ヶ峰<sup>けんがみね</sup>に届け、また、富士山の水（湧玉池の湧水<sup>わくたまいけ ゆうすい</sup>）を琵琶湖に注ぐ「献水<sup>けんすい</sup>」を行います。新型コロナウイルス感染症の影響下、令和3年7月27日には、富士山頂のかわりに、富士山本宮浅間大社境内の記念碑（富士登山50回を記念して建てられた碑）に献水しました。

富士宮市の「富士と琵琶湖を結ぶ会」

は、近江八幡市の「富士と琵琶湖を結ぶ会」訪問35周年を記念して、平成3年に近江八幡市への訪問を始めました。

近江八幡駅伝競走大会には、富士宮市の中学生男女と市民のチームが招待を受け、参加しています。これらのチームは、中学生は市内の駅伝大会で、市民チームは富士宮駅伝競走で優勝したチームです。また、富士宮駅伝競走大会には、近江八幡市のチームを招待しています。

富士宮ライオンズクラブは、両市の駅伝大会参加に協力して、児童交歓会では昭和48年から記念品として富士登山時の金剛杖<sup>こんごうづえ</sup>を贈っています。

富士宮市近江八幡市文化団体交歓事業<sup>こうかん</sup>では、研修会として、3年を周期に、2年に一度両市を交互に訪れ、文化交流を図っています。両市の市民文化祭では、一緒に合唱したり、日本舞踊<sup>ぶよう</sup>などを披露<sup>ひろう</sup>したりします。

最近では、両市の市議会議員が一年おきに行き来していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインで近況報告などの意見交換会を開いています。

また、以前には次のような交流もしています。

富士宮市地域女性連絡会では、昭和53年から両市の女性交流を図る中で、活動などについて研修し、紙芝居やコーラスを中心に発表しあいました。

ガールスカウト富士宮市連絡協議会は、一年おきにお互いの市を訪問し、スカウト精神の意識を高めました。平成26年には「かわらミュージアム」「安土城郭資料館<sup>あづちじょうかく</sup>」を見学したり、船に乗って景色を楽しむ「水郷めぐり<sup>すいごう</sup>」をしたりして、近江の文化と歴史にふれながら友情を深めました。

平成8年には、災害が起こった時、食料品や飲料水など生活に必要な物を用意してお互いに助け合う「相互応援協定<sup>そうごおうえんきょうてい</sup>」が結ばれました。

これらの交流が縁となり、平成18年5月12日には富士宮市の女性と近江八幡市の男性が結婚し、両市の交流をきっかけとした初めてのカップルが誕生しました。





近江八幡市での地引き網体験

児童交歓会には、両市とも36人ずつが参加します。富士宮市は小学校5年生が対象です。どのようなことが行われているのか、それぞれの市で行われた行事を中心に探っていきましょう。第1回目の児童交歓会は、昭和44年に富士宮市立井之頭中学校で開かれました。その後は、会場を交互に移して開かれています。

平成30年度は、近江八幡市で行われました。陶芸体験、環境学習船megumiに乗っての琵琶湖の環境学

習（プランクトン観察）、地引き網体験、沖島でのスタンプラリー、キャンプファイヤー、市内散策などを実施しています。令和元年度は、7月30日から8月1日にかけて、富士宮市の朝霧野外活動センターを宿泊地として行われました。そこでは、焼きそば作りや、富士山宝永火口のトレッキング、白糸の滝見学、キャンドルファイヤー、静岡県富士山世界遺産センター見学、浅間大社・お宮横丁散策などが行われました。キャンドルファイヤーでは、宮おどりや富士宮音頭も踊りました。

いろいろな交流をとおして、食べる物や生活、言葉などお互いの市の魅力を伝え合いました。また、交歓会が終わった後の感想文には、人と接することの大切さや友情・協力することの大切さなどを学んだことも書かれています。新たなつながりができる近江八幡市との児童交歓会に、ぜひ参加してくださいね。



「記念の帽子」

『第37号・夫婦都市のひみつ』は、次の資料<sup>しりょう さんこう</sup>を参考にして作りました。

- 1 『おうみはちまん 一市勢要覧一』 近江八幡市 1992
- 2 『富士宮市ホームページ』 富士宮市 2014
- 3 『岳南朝日 昭和43年8月3日』 1968.8.3
- 4 『岳南朝日 平成30年7月27日』 2018.7.27
- 5 『岳陽新聞 昭和43年8月2日』 1968.8.2
- 6 『岳陽新聞 平成26年5月5日』 2014.5.5
- 7 『近江八幡の歴史 第六巻』 近江八幡市 2014
- 8 『日本の祭り 平成27年夏号』 ゆめディア 2015.5
- 9 『地域の底力』 日本銀行情報サービス局 2017
- 10 『広報ふじのみや 平成25年2月号』 2013.2
- 11 『広報ふじのみや 平成30年8月号』 2018.8
- 12 『広報ふじのみや 平成30年11月号』 2018.11
- 13 『富士山新報 2018年7月27日』 2018.7.27
- 14 『第51回近江八幡市・富士宮市児童交歓会 感想文集』 富士宮市教育委員会 2019

「赤コン君」「あづっち」が近江八幡市のキャラクターです。

「さくやちゃん」といっしょに覚えていてね。



©富士宮市さくやちゃん